

事業名：「ことばの教育」パイロット校事業

学校名：安芸太田町立筒賀中学校

所在地：山県郡安芸太田町上筒賀172番地

H P : tsutsugachu@akiota.jp

学年：4学級 25名

1 研究の概要

(1) 研究テーマ及び研究のねらい

①研究テーマ

自ら学び、自ら考え、

仲間とともに高まろうとする子どもの育成

～ことばの力の育成とひびきあう授業づくりを通して～

②研究のねらい

本校では、3年前から「ひびきあう授業づくり」を研究テーマに生徒の「主体性」と「高まろうとする意欲」を育てる取り組みを進めている。本校では「ひびきあう授業づくり」を、「生徒が意欲的に考えたり表現したりして、それが共鳴し合うことで深まりと広がりのある授業を創造すること」ととらえている。つまり、この「ひびきあう授業づくり」では、教師・生徒のコミュニケーション活動が大変重要な働きをする。

そこで、昨年度からは「ことばの教育」パイロット校 Type IIの指定を受け、「言語技術」を活用したコミュニケーション活動によって各教科等の授業の目標をよりよく達成し、確かな学力をはぐくむことに取り組んでいる。「言語技術」の手法を計画的・継続的に取り入れ、有効に活用し、「ひびきあう授業づくり」を進めていくことで、場面に応じて分かりやすく適切に伝え合い、論理的に考え表現できる生徒を育てたいと考えている。また、生徒同士の発言のつながりや絡み合いを持たせる授業を構成することは、教師の指導力の向上につながるものと考えている。

成果検証の視点

ア 場面に応じて分かりやすく適切に伝え合う力を育てる。

イ 論理的に表現する力を育てる。

ウ 教師の指導力を向上させる。

(2) 研究組織・体制（省略）

(3) 研究内容

国語科・社会科・理科・道徳の時間を中心に、すべての教科・領域で次のように取り組んできた。

① 年間指導計画の充実

各教科・領域の年間指導計画の中における「言語技術」を活用する単元・教材を明らかにし、相互に関連を図る。

② 研修・授業研究の充実

「言語技術」の研修・演習を計画的に実施し、教職員の技術を向上させ理解を深める。

授業研究を通して「言語技術」の有効な活用場面や方法について交流し、実践を充実させていく。

③ 「ことばの時間」の実施

生徒に「言語技術」を身につけさせる時間として週に一度15分間の「ことばの時間」を設ける。

④ 「ひびきあう授業づくり」の実践

「教材・資料の精選」「教師の言語活動の整理」「書きことばを鍛える」取り組みを継続する。授業研究の際は、授業後にテープを起し分析を行う。

⑤ 「言語技術」の生活場面への活用

教師がナンバリングを用いたり、論理的な説明をしたりする。また、生徒会活動などで「言語技術」を用いた活動を意識的に設け、継続していく。

⑥ 定期テスト等の活用

論理的思考力や表現力の定着状況を把握するために、考察を文章で答える問題を入れる。

2 授業改善の視点

(1) 「言語技術」の効果的な活用

(2) 学習内容を整理する書く活動の工夫

(3) 活発なコミュニケーション活動の工夫

3 研究の成果と課題等

(1) 成果

①伝え合う力の育成

・主語を明確にし、長く話したり書いたりできるようになった。体験したことを600字程度にまとめて書けるようになってきた。また、書き出しや構成を工夫し豊かに表現できるようになっており、作品コンクールにも全員が2点以上応募している。

・「相手に分かりやすい構成で話す」「理由を明らかにして書く」などができるようになっている。

・職員室等で用件を言う際、理由や目的をはっきりさせたり、TPOを考えたりするようになってきた。

②論理的な表現力の育成

・同調する発言や似ている発言をしたり、相手の反論を予測して複数の視点で理由を述べるなどの説得力のある話し方ができるようになってきた。

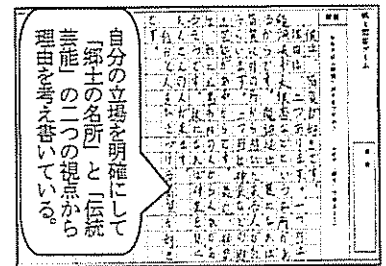
・理科の時間に観察したものと比較して違いを見つけたら、実験結果の考察をまとめて話したり書いたりできるようになってきた。

③指導力の向上

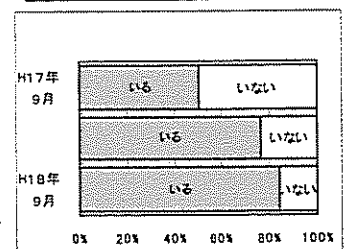
・生徒の中から答えを引き出していくことを意識し、多様な発言が出る発問を工夫するようになった。

・考察などの時間を確保したり書かせたりして生徒に考えをまとめさせるようになった。

・年間計画にもとづき「言語技術」を用いた授業実践を行い、事例集をまとめている。授業後にテープを起すことで授業者の癖がよく分かり改善することができた。



(ことばの教育 実態調査 より)



(2) 課題

- 「受け答え」や「情報の分析」以外の「言語技術」についても「ことばの時間」に習得させ活用させていくことが必要である。
- 生徒の中にはまだ積極的に自分の考えを述べることを苦手としている実態がある。
- 生徒から多様な発言を引き出した後の発言のつながりや絡み合いを組織することが不十分である。

(3) 今後の改善方策等

- ① 「ことばの時間」の充実と教科への活用
短時間でも効果的に「言語技術」を身に付けられるように3年間の計画をたて指導方法・教材の開発などを行うこと。
「言語技術」を活用した授業実践や「書く活動」を取り入れた授業実践を実践事例集としてまとめていく。
- ② うびきあう授業づくりの推進
教材・資料の精選、発問の工夫、指導細案の作成、板書計画の作成などを行い、生徒の発言を組織すること。
- ③ 研修・演習の充実
「言語技術」の演習、授業研究、実践交流などをさらに進め、授業力を向上させること。

4 実践事例

(1) 家庭科 (第3学年)

①単元の紹介

- ア 単元名 わたしたちの成長と家族 (遊び道具をつくってみよう)
- イ 本時の目標
手作りおもちゃのねらいや作り方、遊び方を生徒同士が分かりやすく発表し、質問しあうことで幼児とのふれあいやかかわり方の工夫を考えることができる。

②授業改善のポイント

- ア 「言語技術」の効果的な活用
情報を分かりやすく説明する技術を用いる。
- イ 書く活動の工夫
発表の評価を文章で書かせる。(よい点・工夫する点)

③授業の様子

主な学習活動	生徒の反応
1 できたおもちゃを見せ合う。 2 発表の仕方を確認する。	楽しい雰囲気でお互いに作ったおもちゃに触れてみる。
①発表内容は・・・ ②説明は大きいことから細かいことの順で。 ③相手の目を見てゆっくりと話して・・・	
3 一人ずつおもちゃの説明をする。	僕は、子どもと会話をするのが苦手なので慣れたいです。そのために、ここにあるような「折り紙」を一緒に作ることを通して・・・
「言語技術」の活用 ①手作りおもちゃのねらい ②おもちゃの説明 ③遊び方 ④つくった感想	折り紙をしながらどんな会話をしようと思っているのですか？
4 発表者への質問をする。	どれを作りたい？折り紙は、好き？カエルができたらとばそうね！など話しかけたいと思います。
お互いに質問をして考えを深め、みんなの力でよりよい保育実習にしましょう。	

書く活動	
発表の評価を書く。	
5 まとめ	

④成果と課題

- 「分かりやすく発表する」という課題意識を持つことで、幼児に分かりやすい説明をする工夫ができた。
- 質問し、他者の考えを取り入れることで、幼児とのかかわり方をより具体的に考えることができた。
- 教師が切り返しの発問を準備し、生徒の発言を高めていく工夫が不十分であった。

(2) 国語科 (第2学年)

①単元の紹介

- ア 単元名 平家物語 那須与一
- イ 本時の目標
与一の言動から彼の心情を自分の感じ方と重ねて読みとる。

②授業改善のポイント

- ア 「言語技術」の効果的な活用
情報を的確に分析する技術を用いる。
- イ 書く活動の工夫
与一がなぜ神に祈り、失敗したら自害すると考えたかを書かせる。

③授業の様子

主な学習活動	生徒の反応
1 与一が、扇の的を射る前にしたことを確認する。 2 なぜ与一が神々に祈ったのかを考える。	・「当たり外れは分かりませんが」とあり、絶対当てるという自信がみで祈っている。 ・「いずれもいずれもははじならずといふことぞなき」というみんなが見ている中で源氏の代表だから失敗できない。 ・「北風激しくて～ひらめいたり」とあり、扇が途まらずとも射落とすのが難しいから。
「言語技術」の活用 なぜ弓の名手の与一が神々に祈ったのか、文章の表現を根拠に考えましょう。	
3 「これを射落とすものならば・・・」について考える。 与一が「もし射落とせなかったら自害する」と考えたのはなぜでしょう？	・失敗したら自分の恥でもあるし源氏の名に泥を塗ることになるから。 ・矢を絶対当てるために、失敗したら死ぬと自分を追い込んで集中力を高めている。
4 まとめ 与一がなぜ神に祈り、失敗したら自害すると考えたかを書く。	
書く活動	
☆「与一は、義経に選ばれたのにこれを失敗すれば一生の恥だと思い、これはずしたら自害しようと心に強く念じたのだと思う。沖では平家の人がたくさん見ているし、陸では味方も注目しているのでどうしても当てなければならぬ。それくらい責任を感じ、神にも祈って矢の真ん中を射たいと願ったのだと思う。	

④成果と課題

- 詳細後におこなったので古文への抵抗が少なく、文章の表現を根拠として考えることができた。
- 日頃書くことが苦手な生徒も、複数の意見をもとに与一の思いを考えて書くことができた。
- より多様な表現にしていくために、語彙力を付けていく必要がある。